

平成 27 年 11 月 27 日(金)

国土交通省 関東地方整備局

関東運輸局

記者発表資料

～京浜港物流高度化推進協議会～

「第 11 回物流効率化に関する荷主意見交換会」を開催しました

京浜港物流高度化推進協議会(委員長:中田信哉神奈川大学名誉教授、事務局:関東地方整備局、関東運輸局)は、学識経験者及び京浜港に関係する事業者団体、行政の関係者等により構成し、京浜港の競争力強化や背後圏での物流の高度化に向けた課題解決を図るための様々な取組を行っています。

同協議会では、活動の一環として、京浜港の利便性を高める取組を効果的に進めるべく、国際海上コンテナ輸送を利用する荷主企業との意見交換会を平成 19 年より毎年実施してきております。

この度、10 月 30 日(金)に、荷主企業 11 社にご参加いただき、第 11 回目となる意見交換会を開催いたしました。当日は、海上からの東京湾中央航路・横浜港南本牧 MC-3 コンテナターミナルの見学会の後、発災時における港湾のBCPや港湾物流の高度化などをテーマに意見交換会を行い、ユーザー視点から貴重なご意見をいただきました。意見交換会の詳細については別添をご覧ください。

発表記者クラブ

竹芝記者クラブ・神奈川建設記者会・横浜海事記者クラブ・物流専門紙・その他専門紙

問い合わせ先

関東地方整備局 港湾空港部 港湾物流企画室

室長 野口 孝俊 (のぐち たかとし)

補佐 藤井 久 (ふじい ひさし)

電話 045-211-7437 FAX 045-211-0204

京浜港物流高度化推進協議会 「第11回 物流効率化に関する荷主意見交換会」の開催結果

■開催日時・場所

平成27年10月30日(金)

第一部 海上見学 13:30～15:30 (横須賀港～東京湾中央航路～横浜港)

第二部 意見交換会 16:00～17:30 (横浜第二合同庁舎)

■出席者

(株)イトーヨーカ堂、キヤノン(株)、(株)クボタ、(株)小松製作所、
東芝ロジスティクス(株)、日清物流(株)、(株)日野自動車、富士重工業(株)、
(株)ホームロジスティクス、本田技研工業(株)、(株)LIXIL ※50音順

■(第一部 海上見学)

1日約600隻もの船舶が航行する海上交通の要衝「東京湾中央航路」、大型コンテナ船が接岸している「横浜港南本牧ふ頭」などをご覧いただきました。なお、「東京湾中央航路」は、航路中央部が、国が開発・保全を行う「開発保全航路」に、周辺部が、発災時等に国が航行の障害物を除去できる「緊急確保航路」にそれぞれ指定されています。



大小様々な船舶が行き交う東京湾中央航路



南本牧ふ頭で荷役中の大型コンテナ船

■(第二部 意見交換会)

議事 : 1. 港湾BCPについて

2. 物流高度化について

- ・京浜港の情勢(南本牧ふ頭MC3供用、45ft コンテナの活用)
- ・物流高度化の取組について(可視化・情報化、コンテナターミナルの混雑対策)
- ・物流総合効率化法に基づく倉庫の高度化・効率化の推進

○参加企業からの主な意見

【1. 港湾BCPについて】

- ・ 港湾でのBCPの取組につき伺うことができ、今後の防災対策を進める上で大変参考になった。
- ・ 荷主企業としては、発災後の港湾におけるオペレーションにつき、定量的に想定が提示されると具体的な検討が進めやすい。

- ・ 発災後に港湾機能の復旧に一定の時間を要することも念頭に、平時より複数の経路を利用している。

【2. 物流高度化の取組について】

(可視化・情報化について)

- ・ 社内では、サプライチェーン管理のため、貨物位置・ステイタスの可視化に取り組んでいる。韓国・中国との間における海上コンテナの所在位置情報等がタイムリーに提供される「NEAL-NET」(注:国土交通省が平成26年よりサービス提供)の取組は有用。
- ・ 「NEAL-NET」については、連携する相手国・港湾の拡大を期待。また、相手国や日本国内の長距離内陸輸送も対象とすることについても検討いただきたい。
- ・ システム導入にあたっては、ユーザーの利便性を重視し、既存システムとの連携(シングルウィンドウ)、各企業の自社システムとの接続を十分に考慮すべき。

(コンテナターミナルの混雑対策)

- ・ コンテナターミナルのゲート前における渋滞は、自社の物流拠点とターミナル間での輸送効率を低下させており、大きな課題。搬出入予約制の導入は是非とも導入を検討すべき。コンテナのラウンド輸送(マッチング)による効率化との相乗効果も期待できる。
- ・ 夜間に自社の工場・倉庫は稼働しておらず、ゲートを24時間オープンとする必要性は感じない。他方、荷主の工場・倉庫へ朝一番でのコンテナ搬入を要請された陸運事業者は、現在は前日夕方にコンテナターミナルでピックアップしておく必要があり、朝・夕の延長は効果があると考えている。
- ・ 自社拠点の運用効率を向上させるため、24時間搬出入を行いたいとのニーズはある。仮に港湾で24時間ゲートオープンが実現すれば、交通量の少ない夜間に陸上輸送を行うことが可能となり、車両の回転率改善による効率化、安全性向上などが見込める。

(その他)

- ・ 輸送効率を上げるため、コンテナへの積載率向上やコンテナの自社内ラウンド輸送、他企業とのマッチングなど、様々な取組を行っている。
- ・ 内陸に自社の物流拠点があるため、内陸部に港湾が管理するインランドデポがあるとよい。
- ・ 新たな取組に企業が参画する場合、事前に投資効果を検討し、社内外に説明する責任があるため、具体的な効果等を提示いただきたい。



意見交換会の模様